

第2章

上町台地 “つながり”のスタイル

Style 1

上町台地の 時空につながる扉から

1. 春・夏・秋・冬 まつりをめぐる
2. 子どもと遊びいま・むかしをたずねる
3. 大人から子どもへ伝えるところ
4. 暮らしによりそう手仕事・ものづくり

Style 2

緑と鳥の回廊と 水の縁をめぐる

1. 緑と鳥といのちの回廊をたどる
2. 日常の楽園 コミュニティグリーン
3. 台地を潤す水の縁ふたたび

Style 3

まちで育む 地野菜とつながり

1. なにわ伝統野菜から広がる人の輪
2. 玉造黒門越瓜栽培で“ツルつながり”
3. “ツルつなぎ”プロジェクトのその後

Style 4

日常から減災へ 思いをつなぐ

1. 風土特性と災害リスクに思いを馳せる
2. 全国の“いのちをまもる智慧”に学ぶ
3. 減災ゲームでその日その時に身を置く
4. 土の人と風の人ともに歩む減災への道
5. ふだんの“避難所”体験のすすめ

Style 5

紡がれるつながりと 言葉の力

1. 52人の大切な一冊とお気に入りの場所
2. 上町台地百人一句とU-CoRo人絵巻

Style

1

上町台地の 時空につながる扉から



上町台地の公園にやってくる街頭紙芝居師・杉浦貞さん（撮影2007年4月）

上町台地の時空につながる第1の扉は「まつり」です。古代の祭礼から現代のフェスティバルまで、人々の願いとともに、絶えることなく繰り広げられるまつりをめぐります(1)。

第2、第3の扉は「子どもと遊び」「子どもとまち」です。路地や坂道、鎮守の森などの緑や崖地の多い上町台地界隈は、子どもたちにとって格好の遊びの舞台でもありました。子どもたちの創造力を豊かに育む、まちとの交わりのいま・むかしをたずね、未来をみつめます(2)(3)。

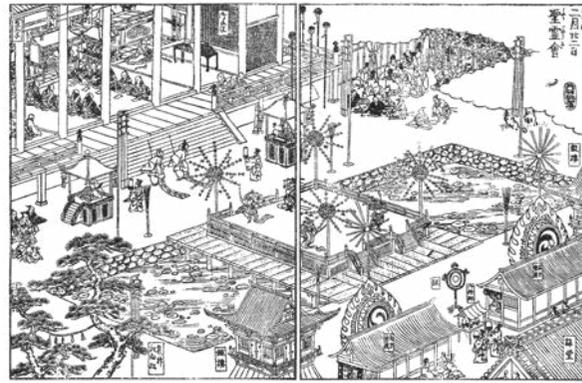
第4の扉は「まちなかのプロフェッショナル」です。丁寧に手をかけたものを介して、人やまちとのつながりを大切に、暮らしに寄り添う手仕事やものづくりや商いの担い手をたずね、その心にふれます(4)。

(1) ウィンドウ・エキジビション01「上町台地まつり絵巻」(2007年2月5日～4月28日)、(2) ウィンドウ・エキジビション02「上町台地 子どもと遊びいま・むかし」(2007年5月14日～8月31日)、(3) ウィンドウ・エキジビション10「まちで育む上町台地の子」(2010年2月1日～5月28日)、(4) ウィンドウ・エキジビション13「上町台地 まちなかのプロフェッショナル～暮らしによりそう手仕事・ものづくり・まちづくり」(2011年2月1日～6月30日)をもとに構成。

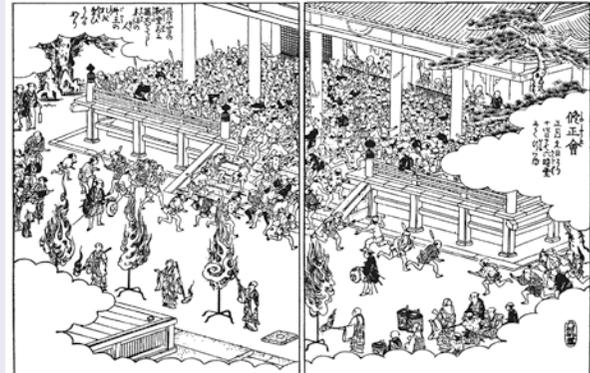
Style 1 上町台地の 1 時空につながる扉から

春・夏・秋・冬 まつりをめぐる

数々の社寺が並び建ち、今も歴史の舞台そのものの姿を宿す上町台地。ここは、浄土信仰の聖地として、あるいは巡礼の道として、古来、多くの人々が行き来した地でもありました。上町台地の祭礼や年中行事、まちの生活文化を紐解いていくと、まつりに刻まれてきた人々の思いや願いの深さに気づかされます。同時にそれは新たなまつりを生み出す、まちのダイナミズムを感じることもつながるものでしょう。



古代から現代まで受け継がれている、四天王寺の「聖霊会」(「撰津名所図会」江戸時代後期)



四天王寺の「どやどや」(「撰津名所図会」江戸時代後期)と厄除けの牛王宝印楊枝(写真)

春



- ◆3月◆
13日 十三まいり(新暦祭) 太平寺
18~24日 春季彼岸会
四天王寺・一心寺他
春分の日 浄瑠璃社春祭 生國魂神社内
祖霊祭 高津宮

- ◆4月◆
上旬 なにわ人形芝居フェスティバル
下寺町・逢阪一帯
三光桜祭 三光神社
桜祭り・手づくり市 高津宮
高倉社初午大祭 高津宮
7日 御神楽(人長舞) 生國魂神社
8日 仏誕会 四天王寺他
11日 家造祖神社の例祭 生國魂神社内
13日 十三まいり(旧暦祭) 大平寺
下旬 四天王寺春の大古本祭り
四天王寺境内

- 22日 聖霊会舞楽大法要 四天王寺
25日 安居神社大祭 安居神社
27日 定例納骨法要 一心寺
◆5月◆
上旬 春の植木市 天王寺公園
5日 城方向八幡宮の走馬神事
生國魂神社内
7日前後の休日 幸村祭 安居神社

夏



- ◆6月◆
1~7日 三光神社の大祭 三光神社
11日 比売古曾祭 高津宮
15日 白菊祭 高津宮
30日 道饗祭 生國魂神社
大祓 高津宮・玉造稻荷神社・生國魂神社
30日~7月2日 愛染まつり 愛染堂勝鬘院

- ◆7月◆
11・12日 いくたま夏祭 生國魂神社
15日 玉造黒門越瓜食味祭 玉造稻荷神社
15・16日 大江神社の夏祭 大江神社
五條宮の夏祭 五條宮
玉造稻荷神社の夏祭 玉造稻荷神社
17・18日 高津宮の夏祭 高津宮
18・19日 河堀稻生神社の夏季大祭
河堀稻生神社
中旬 東高津宮の例大祭 東高津宮
夏祭 御幸森天神宮・弥栄神社
久保神社の夏祭 久保神社
18・21・22日 三光神社夏祭 三光神社
第3土・日曜 堀越神社の夏祭 堀越神社
下旬 大阪城新能 大阪城西の丸庭園
7~8月 大阪城サマーフェスティバル
大阪城公園他

- ◆8月◆
4日 篝の舞楽 四天王寺
9・10日 千日詣り 四天王寺
9~16日 盂蘭盆会万灯供養 四天王寺
11・12日 大阪新能 生國魂神社
23・24日 地藏盆 各地の地藏尊



愛染まつりの花かつら



愛染まつり、芸者さんが「宝恵かご」に乗って参詣(1970年代初、提供:愛染堂勝鬘院)



昭和初期の生國魂神社夏祭枕太鼓(1938年、提供:生國魂神社)



高津宮の富籤・籤箱(1965年頃、提供:高津宮)

過去から現在まで、上町台地に息づいてきたまつりのダイナミズム

古くからの伝統が受け継がれるとともに、新しい動きが生まれています。



からほりまちアート(空堀商店街界隈、2001~2010年)



猪飼野保存会だんじり(2005年、提供:猪飼野保存会)



なにわ人形芝居フェスティバル(写真は2005年、提供:なにわ人形芝居フェスティバル事務局)



年末に出発する伊勢迄歩講(2001年、提供:玉造稻荷神社)



- ◆9月◆
第1土・日曜 彦八まつり 生國魂神社
第2日曜 天王寺区民まつり 五条公園
7か8日 ぜん息・風邪・気管支炎封じ
鎌八幡・圓珠庵
20~26日 秋季彼岸会 四天王寺・一心寺他
秋分の日 祖霊祭 高津宮
浄瑠璃社秋祭 生國魂神社内

- ◆10月◆
体育の日 だんご茶会 玉造稻荷神社
大阪メチャハッピー祭り 大阪城ホール
10日 紙衣さんのお衣替え 四天王寺万灯院
中旬 べんてんさん青空古本市 四天王寺境内
中央区民まつり 難波宮跡公園
14・15日 秋祭 玉造稻荷神社
15・16日 秋祭 御幸森天神宮・弥栄神社
18日 秋祭併敬老祭 高津宮
中旬~11月中旬 大阪城菊の祭典
大阪城本丸内

- 22日 経供養 四天王寺
28日 献茶祭 生國魂神社

- 下旬 とこしえ秋まつり 高津宮
月未または翌月初の日曜
ワンコリア・フェスティバル
大阪城公園内

- ◆11月◆
1日 高倉社御火焚祭 高津宮
上旬 秋の植木市 天王寺公園
四天王寺ワッソ 難波宮跡公園
8日 鞆神社の鞆祭り 生國魂神社内
中旬 生野コリアタウンまつり
御幸通商店街一帯
15日 七五三 各神社
23日 新穀感謝祭 高津宮

- 23日 天長祭 高津宮
28日 初詣・伊勢迄歩講出発 玉造稻荷神社
29日 もちつき 一心寺
31日 大祓 各神社
除夜の鐘 四天王寺・一心寺他



伊勢参宮本街道行程図 発行:玉造稻荷神社

- ◆12月◆
初旬 一万人の第九 大阪城ホール
中旬 大阪義士祭典 吉祥寺
21日 しまい大師 四天王寺

- ◆1月◆
1日 歳旦祭・初詣 各神社
3日 元始祭 高津宮
成人の日 とんど祭 高津宮
9日~11日 えべっさん 御幸森天神宮
10日 織田作之助命日 楞嚴寺
13日 城方向八幡宮の御弓神事
生國魂神社内
14日 どやどや 四天王寺
15日 とんど 玉造稻荷神社・生國魂神社
16日 トンド・白菊祭 高津宮
21日 初大師 四天王寺
25日 契沖忌 鎌八幡・圓珠庵
新年最初の庚申の日と前日
初庚申 四天王寺庚申堂

- ◆2月◆
1~3日 風邪除け風天尊祭 清水寺
3日 節分祈願会 藤次寺
節分祭 玉造稻荷神社・高津宮・堀越神社・五條宮
8日 針供養・筆供養 太平寺
11日 献梅祭 高津宮
22日 太子二歳まいり 四天王寺
23日 的祭神事 高津宮
2月初午 初午祭 玉造稻荷神社
大阪城公園観梅 大阪城公園

※まつりの日程は年によって変わることがあります。足を運ばれる場合は事前にご確認ください。



高津宮のとんど祭、併催の野外コンサートに多数の観客が集まる

上町台地まつりMAP



古代の国際交流を再現する四天王寺ワッソ(難波宮跡公園)



地域の地蔵尊が今も大切にされている上町台地界隈
左上：空堀延命地蔵(谷町7)
右上：日限地蔵尊(谷町6)
左下：地蔵尊(谷町7)
中下：將軍地蔵尊(上本町8)
右下：永泰地蔵尊(釣鐘町2)

“上町台地のまつりを紐解く” スペシャル・トークと交流のタベ

上町台地の歴史・文化に造詣の深いゲストのお話の後に、歴史ある社寺の方々や新しいイベント等の関係者が語り合う貴重な時間となりました。

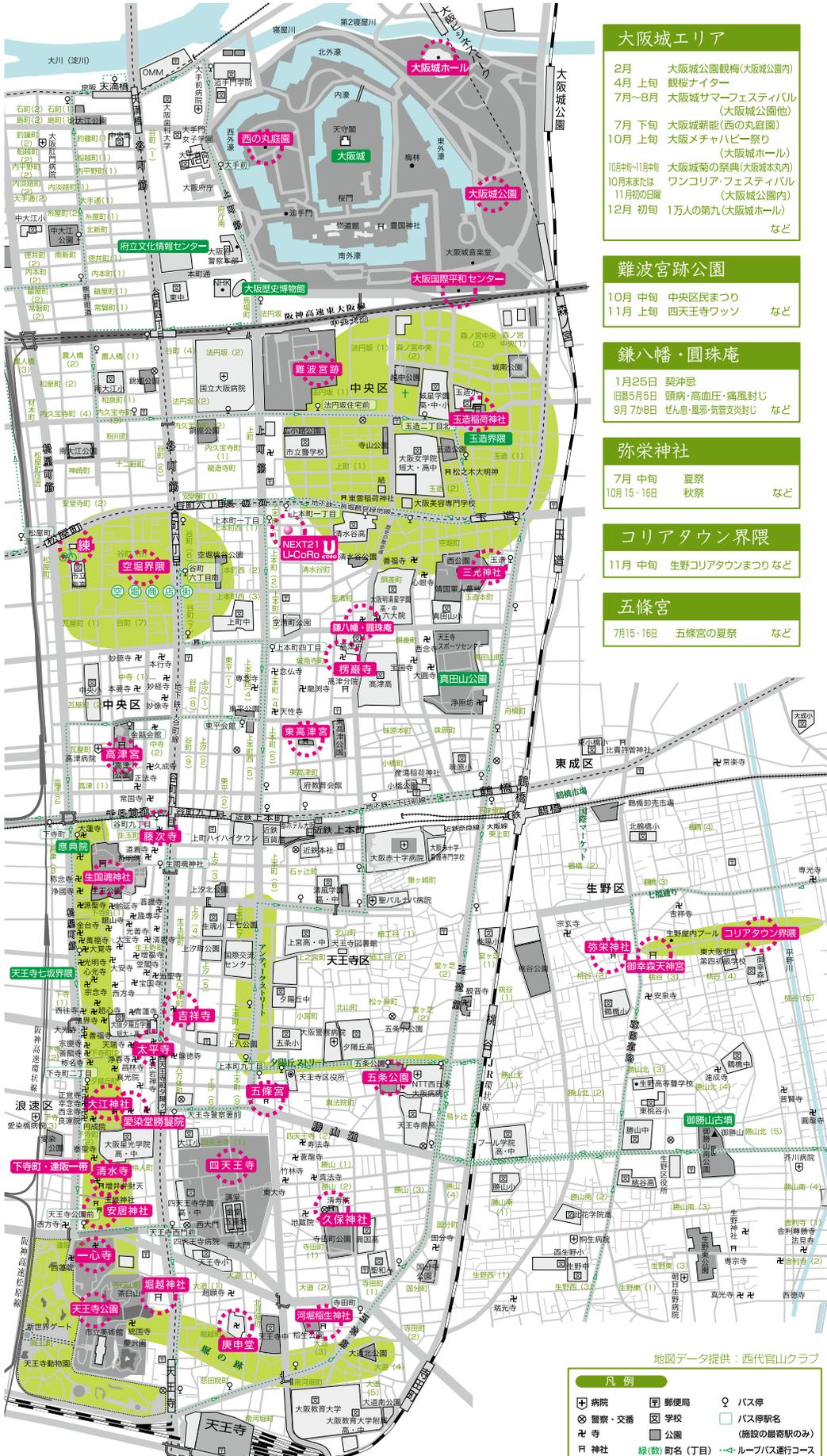
ゲスト：澤井浩一さん(大阪歴史博物館学芸員)
北川 央さん(大阪城天守閣研究副主幹)

開催日：2007年4月29日 / 会場：NEXT21ホール
主催：大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所(CEL)

※肩書、所属等はイベント開催当時のものです。 2007.4.29

- 玉造稲荷神社**
 - 1月 1日 歳旦祭
 - 1月 15日 とんど
 - 2月 3日 節分祭・厄除け
 - 2月 初午 初午祭
 - 6月 30日 大祓
 - 7月 15日 玉造黒門越瓜食味祭
 - 7月 15・16日 玉造稲荷神社の夏祭
 - 体育の日 だんご茶会
 - 10月 14・15日 秋祭
 - 11月 15日 七五三
 - 12月 28日 初詣・伊勢辻歩講出発
 - 12月 31日 大祓 など
- 三光神社**
 - 4月 上旬 三光桜祭
 - 6月 1~7日 三光神社の大祭
 - 7月 18・21・22日 三光神社の夏祭 など
- 東高津宮**
 - 7月 中旬 東高津宮の例大祭 など
- 楞嚴寺**
 - 1月 10日 織田作之助命日 など
- 御幸森天神宮**
 - 1月 9~11日 えべっさん
 - 7月 中旬 夏祭
 - 10月 15・16日 秋祭 など
- 五条公園**
 - 9月 第2日曜 天王寺区民まつり など
- 四天王寺**
 - 1月 14日 どやどや
 - 1月 21日 初大師
 - 新暦の庚申の日 初庚申
 - 2月 3日 節分まつり
 - 2月 22日 太子二歳まいり
 - 3月 18~24日 春季彼岸会
 - 4月 8日 仏誕会
 - 4月 22日 聖霊会舞臺大法要
 - 4月 下旬 四天王寺春の古大木祭り
 - 8月 4日 千の舞臺
 - 8月 9・10日 簿の舞臺
 - 8月 9~16日 盂蘭盆会万灯供養
 - 9月 20~26日 秋季彼岸会
 - 10月 10日 紙衣さんのお衣替え
 - 10月 中旬 べんてんさん青空古本市
 - 10月 22日 経供養
 - 12月 21日 しまい大師
 - 12月 31日 除夜の鐘
 - 毎月 21日 大師会
 - 毎月 22日 太子会
 - 庚申の日と前日 庚申まいり など
- 久保神社**
 - 7月 中旬 久保神社の夏祭 など
- 河堀稲生神社**
 - 7月 18・19日 河堀稲生神社の夏祭 など
- 下寺町・逢阪一带**
 - 4月 上旬 なにわ人形交遊フェスティバル など
- 天王寺公園**
 - 5月 上旬 春の植木市
 - 11月 上旬 秋の植木市 など
- 堀越神社**
 - 2月 3日 節分祭
 - 7月 第3土曜 堀越神社の夏祭 など

- 大阪城エリア**
 - 2月 大阪城公園観梅(大阪城公園内)
 - 4月 上旬 観桜ナイター
 - 7月~8月 大阪城サマーフェスティバル(大阪城公園他)
 - 7月 下旬 大阪城新能(西の丸庭園)
 - 10月 上旬 大阪メチャヒー祭り(大阪城ホール)
 - 10月 中旬 大阪城苑の祭典(大阪城丸内)
 - 10月 末または11月 初日 ワンコリア・フェスティバル(大阪城公園内)
 - 11月 9日 日曜(大阪城公園内)
 - 12月 初旬 1万人の第九(大阪城ホール) など
- 難波宮跡公園**
 - 10月 中旬 中央区民まつり
 - 11月 上旬 四天王寺ワッソ など
- 鎌八幡・圓珠庵**
 - 1月 25日 契沖忌
 - 旧暦5月 5日 頭痛・高血圧・痛風封じ
 - 9月 7か9日 ぜん息・風邪・気管支炎封じ など
- 弥栄神社**
 - 7月 中旬 夏祭
 - 10月 15・16日 秋祭 など
- コリアタウン界隈**
 - 11月 中旬 生野コリアタウンまつり など
- 五條宮**
 - 7月 15・16日 五條宮の夏祭 など



- 高津宮**
 - 1月 1日 歳旦祭
 - 1月 3日 元始祭
 - 成人の日 とんど祭
 - 1月 15日 トント・白菊祭
 - 2月 3日 節分・厄除け
 - 2月 11日 献茶祭
 - 2月 23日 的祭神事
 - 春分の日 祖霊祭
 - 4月 上旬 高津宮桜祭り
 - 4月 上旬 高倉社初午大祭
 - 6月 11日 比売古曾祭
 - 6月 15日 白菊祭
 - 6月 30日 大祓
 - 7月 17・18日 高津宮の夏祭
 - 秋分の日 祖霊祭
 - 10月 18日 秋祭併敬老祭
 - 10月 下旬 とこしえ秋まつり
 - 11月 1日 高倉社御火災祭
 - 11月 15日 七五三
 - 11月 23日 新穀感謝祭
 - 12月 23日 天長祭
 - 12月 31日 大祓・除夜祭
 - 毎月 1・15日 月次祭・湯立て神事
 - 毎月 午の日 稲荷神社月次祭
 - 月 1・2回 高津の富亭 など
- 藤次寺**
 - 2月 3日 節分祈願会 など
- 生國魂神社**
 - 1月 13日 城方向八幡宮の御弓神事
 - 春分の日 浄瑠璃社春祭
 - 4月 7日 御神楽(人長舞)
 - 4月 11日 家造祖神社の別祭
 - 5月 5日 城方向八幡宮の走馬神事
 - 6月 30日 道饗祭
 - 6月 30日 大祓
 - 7月 11・12日 いくたま夏祭
 - 8月 11・12日 大阪新能
 - 9月 第1土曜 彦八まつり
 - 秋分の日 浄瑠璃社秋祭
 - 10月 28日 献茶祭
 - 11月 8日 竊神社の禊祭り など
- 吉祥寺**
 - 12月 中旬 大阪穀土祭典 など
- 太平寺**
 - 2月 8日 針供養・鐘供養
 - 3月 13日 十三まいり(新暦祭)
 - 4月 13日 十三まいり(旧暦祭) など
- 大江神社**
 - 7月 15・16日 大江神社の夏祭 など
- 愛染堂勝鬘院**
 - 6月 30日~7月 2日 愛染まつり など
- 清水寺**
 - 2月 1~3日 風邪除け風天尊祭 など
- 安居神社**
 - 4月 25日 安居神社大祭
 - 5月 7日前後の休日 幸村祭 など
- 一心寺**
 - 4月 27日 定例納骨法要
 - 12月 29日 もちつき
 - 12月 31日 除夜の鐘 など
- 各地の地蔵尊**
 - 8月 23・24日 地蔵盆 など

上町台地を舞台に 多彩なまつりが展開 まつり 絵巻



玉造稲荷神社の夏祭・獅子頭(昭和初期、玉造稲荷神社蔵)



境内に枕太鼓が響く、いくたま夏祭



大阪の夏祭の始まりを告げる愛染まつり(提供：愛染堂勝鬘院)



四天王寺骨董市、毎月21日は大師会、22日は太子会

※ご紹介しておりますものは、上町台地界隈で年中行事として親しまれている祭礼やフェスティバルの一部です。ほかにも多くの魅力的な行事が行われています。

★昭和後期遊び場マップ

まだ、まちなかの人口が多かった頃、子どもの姿もあちこちで見られたようです。身近な公園も増えてはきましたが、学校の増設が急がれたようです。戦災の焼け跡、廃墟、空き地など、子どもたちは与えられた遊び場ではない場所を“発見”しては遊び場にしていました。

戦災復興の後に訪れた大阪の転換点は1970年(昭和45)の大阪万国博覧会に向けた都市再開の波でした。1965年(昭和40)以降増大する道路の拡幅や建物の高度化などに伴い、公園や緑地は増えましたが、路地や空き地などそれまでの遊び場は徐々に姿を消していきました。

上町台地の坂を滑り降りるため、板きれにコロを付けたり、虫とり網をつかったり、遊び道具を自分たちでつくる時代でもありました。一方、ビー玉やメンコなど多様に使えるものから、ボードゲームや着せ替え人形などにオモチャが変化していくのも万博の頃でした。

駄菓子屋さん
かつて地域に軒はあった駄菓子屋さん。子どもたちは学校から帰ると、小銭を握りしめて一目散に走っていきました。安いお菓子やおもちゃを選ぶのに時間をかけ、駄菓子屋さんの周りにみんなが集まったりもしました。親はあまり良くは言わなければ、とにかく自分で選べる楽しさがあり、少ないお金で何が買えるのかを考えることで、お金の計算も覚えました。当てものやクジもあり、ちょっとしたスリルもありました。そんな駄菓子屋さんも、やがて高度成長の波の中で、いつの間にかその姿を消していきました。

子ども連れて行った商店街の夜店

地蔵盆や盆踊りとともに、確か4と9の付く日に商店街で定期的に開かれていた夜店も子どもたちの夜の楽しみだったように思う。夜なので親と一緒に行かないといけないうえ、夜店の日には子どもたちによく連れて行くようせがまれた。商店街の端から端まで夜店が続いて、子どもたちをはじめ客も多く、夜遅くまでにぎわっていた。子どもたちが大きくなって、連れて行かなくなってからしばらくして、気が付いたら夜店が開かれなくなっていた。

空堀のはいらほり商店街 昭和40年頃までは4と9の日に夜店が連なっていた

子どもたちの縄張りがあった路地

空堀商店街北側に「からほりマーケット」という路地が入り組んだ市場があって、そこが自分たちの縄張りだった。路地ではビー玉やベツタンをしたり、塀や軒が上がったり、うどん屋の裏に干してある簾(すだれ)を失敬して、弓矢を作ったりしていた。昭和30年代の路地には大抵5~6人は子どもがいて、そのまま縄張りになっていた。ビー玉遊びなどでは「外戦(がいせん)」と称して、隣の路地に遠征することもあった。正月には駄菓子屋で買った火薬玉を弾かせる音があちこちから聞こえた。

旧からほりマーケット界隈の路地・高津宮とその周辺、中央シネマ・中寺町の寺の境内

まちなかの空き地や洞窟、廃墟

昭和30年代まではまちなかのあちこちに空き地や崖地の洞窟、廃墟があって、格好の遊び場だった。戦災の跡や移転した工場跡地が空き地になっていて、草野球をよくした。空き地の広さに合わせて三角ベースにするなどルールを変えて遊んでいた。「練」の東側には高射砲陣地の廃墟もあって、探検ごっこやかくれんぼなどをしていた。地下室や洞窟などは暗くてちょっと怖かったが、危ない場所という気持ちはなく、遊び場のひとつだった。

線(病院時代のロビーや地下室)・南大江公園・大阪城公園の堀・中央シネマ(現久宝堂付近)

- 拡幅前の谷町筋**
車が一台やっと通れる幅で、両向きには路地が広がっていた。
- まちなかの空き地**
まちなかのあちこちに空き地があって草野球などができた。
- 中央シネマ**
三本立ての格安映画館。
- 高津宮北側の崖地**
土山があったり、起伏に富んでいた。
- 上町中学校校門前**
紙芝居が来ていた。
- 高射砲陣地跡**
探検ごっこができた廃墟のひとつ。
- 高津宮南側の池**
昔は池になっていて、ザリガニを釣ったりしていた。
- 谷町六丁目の路地**
子どもが路地ごとになわばりをもっていた。
- 上本町西の路地**
坂のある路地では板きれにコロをつけて滑り降りていた。
- 高津宮境内**
虫とりやかくれんぼ、木登りをした。夏祭りのときはにぎわった。
- 谷町筋裏の崖地**
家が密集するなかの不思議な空間だった。
- 生玉さん門前の池**
ハス池でザリガニ釣りやトンボとりをした。
- 生國魂神社**
夏祭りには親に連れていってもらった。
- 生玉公園**
ボール遊びや西側の斜面で木登り、かくれんぼ、お化けごっこ。
- 拡幅工事の道路**
道路になる前は空き地や広場だった。
- 上沙町公園**
遊具のほかに立派な土俵もあった。

昭和33年(1958) フラフープ大流行 昭和36年(1961) 市電の廃止とトロリーバス

昭和33年にフラフープが登場。直径約88cmのプラスチック製の輪を腰で回転させる遊びにみんなが熱中した。10月から始まったその流行も年内にあっという間に終焉した。

上町台地の路地裏にあった崖地

昭和40年代の初め頃は、まだ谷町筋の谷六交差点から谷七交差点の間は拡幅前で、車1台が何とか通ることができるくらいの道幅だった。細い谷町筋の両脇には路地と長屋が続いていたが、谷町筋に面した新谷町第二ビル(空堀と〜商店街南側)の東側に、つづら折りの坂が付いた崖があった。草木の間に土も見え隠れしているような崖で、家だらけのまちなかで、子ども心に何だか特別な空間のような気がしていた。坂を通学路にしていたので、下校途中によく遊んだ。

高津公園・南大江公園・高津宮・路地・夜店・真山山公園・空清町公園・つづら折り階段



路地裏に坂道、商店街…、子どもにとって、まちは遊び場

- 大阪城公園の堀**
堀の石道を下まで降りて釣りをしていた。みんなやっていたので怒られなかった。
- 玉造稲荷神社の境内**
草野球や木登り、花摘みで遊んだ。
- 上町筋と路面電車**
広い上町筋の歩道も遊び場だった。路面電車をよく眺めていた。
- 長堀通・玉造筋**
長堀通から玉造筋にかけてトロリーバスが通っていた。
- 真山山プール**
夏は家族や友だちとよく出かけた。
- 千日前通の路面電車**
お祝い事の際の花電車がきれいだった。
- 空堀商店街**
4と9が付く日には夜店がにぎやかだった。
- 清水谷公園**
草や木がたくさんあった。缶蹴りなどをして楽しんだ。
- 桃山病院のスロープと裏の崖地**
虫とりや草摘み、かくれんぼ、崖下りで遊んだ。
- 環境科学研究所の植栽**
夏休みのセミとりやかくれんぼ。
- 空清町公園**
遊具の少ない公園で、たごあげ、花火、草野球などをした。
- 筆ヶ崎の坂**
台車や三輪車で滑り下り。
- 府宮筆ヶ崎住宅/市営小宮住宅**
団地のなかの小緑地、小さな場所でも大切な遊び場。
- 五条公園**
遊具や草野球で遊んだ。
- 細工谷の路地**
路地でかけっこ、おにごっこ、草野球、ゴム飛び、空き家(お化け屋敷)の探検も。
- 寿寺**
境内では夏休みにセミをとった。

いつも子どもが集っていた近所の駄菓子屋

家の前に駄菓子屋があった。大抵のおもちゃや駄菓子はそこで売っているもので事足りていた。夏はかき氷も作って売っていたので、遊びの合間にみんなで食べていた。元日も開いていたので、お年玉をもらうとすぐに駄菓子屋に向かっていった。今思えば、家の前が駄菓子屋というのは子どもにとって夢のような環境だった。閉店したのは昭和50年頃だったように思うが、もう大人になっていたので記憶も定かではない。いつの間にか近所の駄菓子屋もなくなっていた。

旧空堀桃谷小学校跡の駄菓子屋跡 小学校は公園になり、まちなみも様変わりした

団地などの緑地や小公園

府宮住宅や市営住宅、合同宿舍など、まちなかに4階建てくらいの建物が並んだ小さな団地があちこちにあったが、どこにも必ず小さな緑地やプランコなどが置いてある小公園が設けてあり、ゆったりとした空間が保たれていた。そして、そこには必ず桜の木が植えてあって、春はどこでもお花見ができた。季節を感じることもできた。路地や空き地など公園以外の小さな遊び場がたくさんあったが、団地の小緑地や小公園はいつの間にか駐車場に変わったり、団地自体がなくなっていた。

五条公園・細工谷や筆ヶ崎の路地、団地の小緑地、猫間川

★平成以降遊び場マップ

少子化の進行やまちなかの人口減少などによって、上町台地の子どもの数もかなり少なくなり、小学校の統廃合も進みました。最近では都心回帰の動きもあって、上町台地の人口は増加傾向にありますが、ベビーブームの頃のような爆発的な子どもの増加にはつながっていません。

いわゆるテレビゲームやファミコンなど1980年代から広がりはじめた映像ゲーム、デジタルゲームも遊び方に大きな影響を与えています。また、塾や習い事など学校と家、遊び場以外の時間が増えたことも外での遊びに変化を与える一因と見られます。

しかし、上町台地はまちなかにありながら、身近な公園から真田山や難波宮跡など大きな公園まで大小揃っていますし、お寺や神社の木々など身近な自然も多く、セミとりや草花摘み、草野球など、都会では楽しめないと思われがちな遊びに興じられる環境が充実しています。

上町台地で今も楽しめる紙芝居



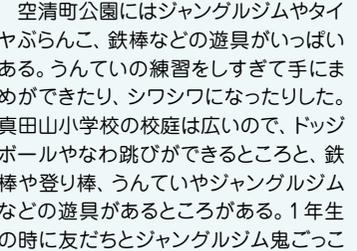
お天気の良い金曜日の夕方、上汐や空堀界隈に昔懐かしい拍子木の音がこだまします。それについていけば上汐町公園と谷町六丁目(桃園)公園で紙芝居が今も楽しめるのです。全国でもただ一人となったプロの街頭紙芝居師・杉浦貞(ただし)さん。お母さんたちに依頼され、四半世紀に渡ってホームグラウンドの北区から上町台地に毎週やってきます。子どもたちとも顔なじみ、真剣に叱る場面もあり、次週が待ち遠しくなる語り、お母さんたちも思わず一緒に入ってしまう光景は、地域のつながりが子どもを育てていくことを目に見える形で教えてくれるようです。

※天気のよい毎週金曜日に、午後4時~4時半頃は上汐町公園、5時半~6時頃は谷町六丁目公園で紙芝居実演中。



公園や小学校の校庭

空清町公園にはジャングルジムやタイヤぶらんこ、鉄棒などの遊具がいっぱいある。うんていの練習をしすぎて手にまめができた、シワシワになったりした。真田山小学校の校庭は広いので、ドッジボールやなわ跳びができるどころ、鉄棒や登り棒、うんていやジャングルジムなどの遊具があるところがある。1年生の時に友だちとジャングルジム鬼ごっこという遊びをしていて、ジャングルジムから落ちそうになったことを覚えている。

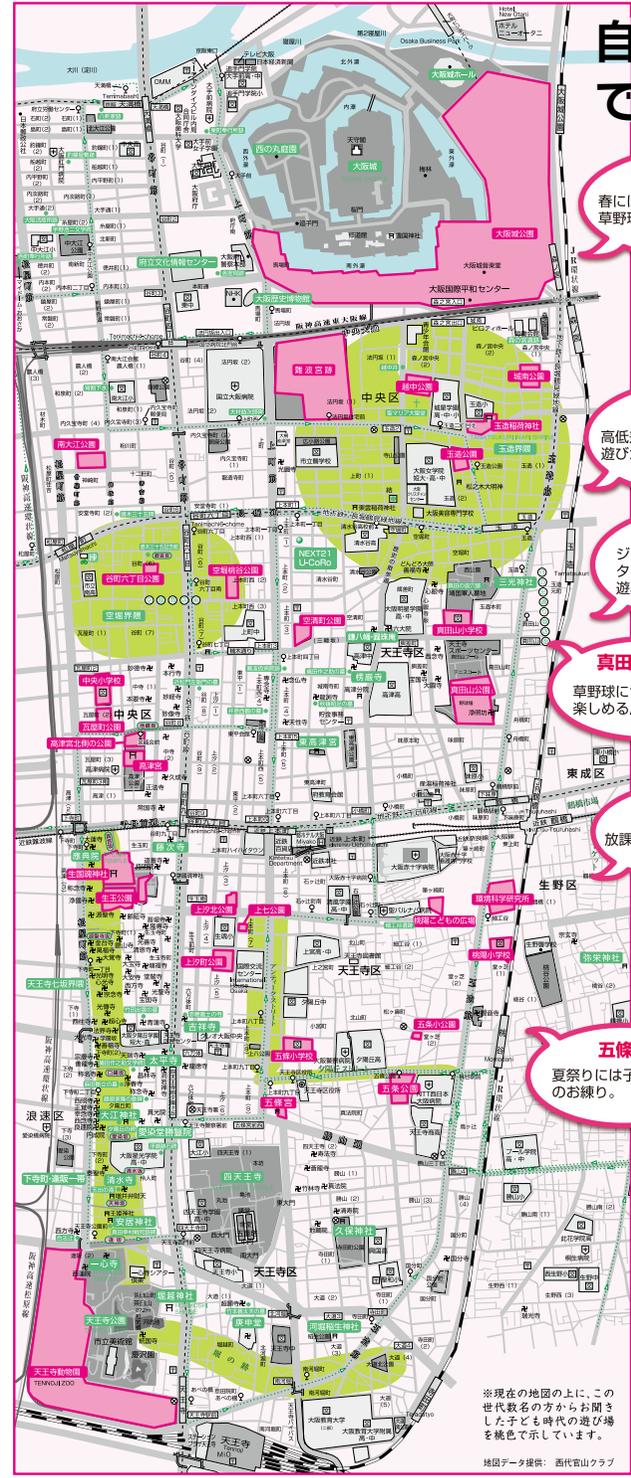


思い出の遊び場 空清町公園・真田山小学校の校庭
思い出の遊び場 ジャングルジム・うんてい・ドッジボール・なわ跳び・鬼ごっこ

地藏盆のにぎわい再び

上町台地の各地では今でもたくさんのお地藏さんが大切に信仰され、あちこちで賑やかに地藏盆が行われています。ですから、昔から住んでいる人たちに、子どもの頃の楽しい思い出はと尋ねると、地藏盆が真っ先にあげられることが多いようです。この日は、近所みんなが集まっていっしょに遊ぶ特別の日。当てもやゲームをしながら、おさがりのお菓子も袋一杯もらえます。最近ではいったん衰退しかかった地藏盆を再興しようという動きも広がってきており、子どもからお年寄りまで、世代を越えて参加して、地域あげての盆踊りも併せて行うような地藏盆も見られます。

將軍地蔵尊の地藏盆(2005年、越中屋「夕陽丘ストリート」提供)



自然に恵まれた上町台地界隈、でも、外遊びはやや不活発に

- 大阪城公園** 春にはお弁当をもって家族でお花見。草野球や遊具遊びもできる。
- 城南公園** 駅前の大通りから一本入ると不思議と静か。
- 越中公園** 越中井近くにあるとてもきれいな公園。
- 五造稲荷神社** 境内には車が入ってこないから安心して遊べる。草花を使ってお料理ごっこ。
- 玉造公園** 高低差があるからいろんな遊びができる。
- 空清町公園** ジャングルジムや鉄棒、タイヤ、ブランコなど遊具がたくさん楽しい。
- 真田山公園** 草野球にサッカーが楽しめる広いスペース。
- 真田山小学校校庭** 広くてドッジボールやなわとびができる。

天王寺スポーツセンター 真田山プール
平成10年5月、真田山公園に、スポーツセンター、屋内温水プール、トレーニング場、屋外プール(冬期はアイススケートリンク)がオープン。



- たまごっち流行** 平成8年、画面内の電子ペットを育てる小さなゲーム劇「たまごっち」が社会現象になるほどに大流行。これ以降、さまざまなキーチェーンゲームのブームが起こった。
- 難波宮跡公園** 広い原っぱでお父さんと自転車の練習。
- 南大江公園** 二段になって草野球にはちょっと狭くなった。
- 空堀桃谷公園** 旧桃谷小学校跡。
- 中央小学校校庭** 放課後や土曜日は校庭開放されている。
- 瓦屋町公園** フェンスで囲まれているのでおもいきり球技ができる。
- 高津宮** 夏祭りでは金盞地区のみこしも復活して、さらに賑やかに。
- 上汐北公園** 遊具に砂場にコンクリートの山。楽しい遊びがいっぱいできる。
- 高津宮北側の公園** 起伏もあって木々も多い。昔からの遊び場。
- 生玉公園** グラウンドではキックベースボールの練習。
- 生園魂神社** 夏祭りには露店がたくさん。
- 上汐町公園** 遊具があって、春にはお花見。毎週金曜日は紙芝居がやってくる。
- 天王寺動物園** 休日に親子でお出かけ。

- 桃陽小学校校庭** 放課後や土曜日は校庭開放。
- 桃陽こどもの広場** サッカーや草野球でよく遊ぶ。今も夏休みのセミとりポイント。
- 五条小学校** 將軍地蔵尊の地藏盆では、校庭で盆踊り。露店もできる。
- 五条公園** グラウンドは予約制なので、南側の遊具スペースが子どもの遊び場。

夏の終わりに振り返る 子ども、うえまち、いま・むかし

杉浦さんの紙芝居を楽しんだあとは、懐かしい駄菓子の時間。そして、宮本順三さんがグリコのおまけにこめた夢について、樋口さんにお話を伺いました。

街頭紙芝居師・杉浦貞さんの紙芝居上演



ビニールプールの中にラムネやジュース
宮本順三記念館豆玩舎ZUNZOの樋口須賀子さんが講演

開催日：2007年8月25日 / 会場：NEXT21ホール
主催：大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所 (CEL)
※肩書、所属等はイベント開催当時のものです。 2007.8.25

Topics **昭和58年(1983)** **テレビゲーム発売**
昭和58年に、任天堂から「ファミリーコンピュータ(ファミコン)」が発売された。それ以降、テレビゲームは子どもの日常の中に急速に浸透していった。

Topics **平成03年(1991)** **小学校の統廃合**
平成3年3月31日、都心部の人口減少の影響を受けて、桃園(とうえん)、桃谷(とうたに)、金盞(きんさん)、東平(とうへい)の4小学校が閉校となり、大阪市立中央小学校として統合された。

『近所付き合い』 だった 小中学校と先生』

丸栗シキリ
岸本智恵子さん

団塊の世代ですので、通っていた小学校も中学校も児童・生徒数がとても多く、授業の合間の休み時間など校庭でとても遊べる余地がありませんでした。でも、当時は先生に日直や宿直があって、日曜日にこっそり校庭を開放してくれて、そのときは広い校庭で思いっきりドッジボールや鬼ごっこを楽しめました。夏にはプールも開放してもらえました。中学校は家のすぐ近くだったのですが、宿直の先生が朝ご飯を食べに我が家へ来ることもありました。家は当時も周屋でしたので、住み込みの社員さんもいて、朝から親兄弟だけでなく大勢で食事をしていました。夏休みには水都祭の花火が中之島の剣先と桜宮で上がったのですが、中学校の先生が近所の生徒や親を屋上に招いてくれて、両方で上がる花火を一度に楽しむこともできました。今思えば、先生も親たちも子どもたちを楽しませることが普通にできた、のんびりした時代だったのかもかもしれません。今よりも子どもが多い時代でしたが、先生がまさに近所付き合いの感じでまことにいたおかげで、先生とのふれあいの思い出はたくさん持っているように思います。

〔旧東区島町あたりの昭和35（1960）年頃の思い出〕



悠久の上町台地で考古学者になってみよう [歴博・わくわく子ども教室]

寺井 誠さん
大阪歴史博物館学芸員

大阪歴史博物館の一角で、子どもたちに歴史に親しんでもらう「わくわく子ども教室」を開催しています。「考古学者になってみよう!」というノリで、昔の瓦の拓本をとってみるなど、考古学の研究をできるだけ気軽に楽しめるプログラムを用意しています。以前は予約制でしたが、2006年春から現在のように開催時間内ならちょっとだけでも楽しめるかたちに変えてみました。

子どもの頃のいろんな体験は大切です。私自身も子どものときの体験が考古学への第一歩でしたので、それだけに子どもたちにも遊びの感覚で学んでほしいと願っています。「わくわく」のプログラムは単なる「子どもだまし」ではありません。考古学の専門性を保ちながらも、誰にでも楽しんでもらえるように工夫しています。「分かった! 知った! やったあ!」という感じでしょうか。なので、子ども以上に夢になっている大人もいますし、外国人旅行者が楽しんでいくこともあります。ボランティアのおっちゃん・おばちゃんや他の大人の参加者との出会いも、子どもにとって良い機会だと思います。歴史を遊びにいらっしやいませんか。



「むかしの瓦の拓本体験」に子どもたちが挑戦



「れきはく」の愛称で知られる大阪歴史博物館「わくわく子ども教室」は1階のエントランスと8階のなわ考古研究所を主な会場として開催されます。第1土曜は「むかしの瓦の拓本体験」が8階で、第1・第3土曜は「手作りおもちゃで遊ぼう」が1階でそれぞれ開催。また、参加者限定の特別プログラムの開催もあります。参加申込や参加費は原則として不要です。



お問い合わせ先
大阪歴史博物館
TEL: 06-6946-5728

子どもの頃の夢中でわくわくする体験はとて大切。

能から楽しく学び伝える有形・無形の文化力 [能と遊ぼう!]

玉造稲荷神社宮司
鈴木一男さん

『子ども・地域とつながっていた交番のお巡りさん』

戦争が終わって10年経つが経たないぐらいの玉造界限は、焼け跡の廃墟や空き地がまだあちこちに残っていました。結構大きな木々も多かったことを覚えています。草野球に缶蹴り、砲兵工廠跡など廃墟をめぐる探検ごっこ、毎日元気に遊び回っていました。進駐していた米軍機が低空飛行しながらお菓子をパラシュートで落としてくれたこともありました。そんな子ども時代に、玉造小学校のそばにあった交番は気軽に立ち寄れるオアシスみたいなところでした。お巡りさんはみんな、厳しくも優しく子どもたちに接してくれて、冬は交番のなかで焼いていた焼き芋、夏は氷の冷蔵庫で冷やした水やがち割りももらったりもしました。夏休みの合間も喉が渇けば交番へ駆け込んでいました。近所の大人たちも交番前の花壇づくりや清掃と、何かと交番に立ち寄っていました。巡回中には声も掛けてくれる顔見知りのお巡りさんは、今振りかえると、まちなかで子どもたちが安心して遊べる一因だったように思います。



能面を實際につけて舞台を歩くのも子どもたちにとっては貴重な体験

山本章弘さん
山本能楽堂、観世流能楽師

山本章弘さん(右)と中西美穂さん(左)

谷町四丁目駅から北西にすぐ。徳井町にある山本能楽堂は国登録文化財でもあります。由緒ある能楽堂での「能と遊ぼう!」は小学生を対象に、2~3ヶ月で10回のプログラムが組まれています。鼓や笛の体験もあり、能の魅力に楽しく接することができ、遠くから通ってくるお子さんもいます。次回の募集などは山本能楽堂のホームページでもチェックできます。



お問い合わせ先
山本能楽堂「能と遊ぼう!」係
TEL: 06-6943-9454

小道具の工作もあり、遊びながら能に親しむ機会です。

大人から子どもたちへ伝えること、 思い出のつぎやき

『いち早く進んだ 都市化のなかで 子どもをまちへ誘った商家』

吉見孝信さん
生保町1丁目1番地
吉見商店

北大江界限は戦前から商いのまちでしたが、戦後まもなくから事業所などが増えていくいわゆる都市化がいち早くはじまったまちでもありました。そのため、ここで暮らしながら商売をしている人たちは早くから減少傾向にあったように思います。通っていた小学校には京阪沿線などからの越境通学もあって、児童数はたくさんでした。しかし、越境通学の同級生は授業が終わるとすぐ家路につきまじし、習い事に通う友達も多かったのです。家の近くで大勢の友達と一緒に遊ぶようなことはあまりありませんでした。中学校は真田山にある明星中学へ進学しましたが、そこでは私のようにまちなかの商家から通う同級生がほとんどでした。互いに家で商売しているので、親からあれこれ構ってもらった記憶はありませんが、その働く姿や大人同士のやりとりなどを自然と目にしてきたからでしょうか、まちの様子やしきりなどを、付き合いなどが知らず知らずのうちに身に付いていったように思います。地元をまちづくりに長年関わるキッカケは案外、中学から高校での経験がもとになっているのかもしれない。

〔旧東区(現中央区)船越町あたりの昭和35(1960)年頃の思い出〕



一番下のグラフは上町台地とその境界にあたる中央・東成・生野・天王寺4区の国勢調査における人口推移です。1960年にピークを迎え、その後は郊外への人口流出もあって、2000年にはピーク時の6割以下まで減少。しかし近年は都心回帰の動きが強まり、人口は漸増に転じています。14歳以下の割合は1975年に若干増えた以外は一貫して漸減、急ピッチにまちなかの子どもが減ってきたことがうかがえます。一方、1990年以降は65歳以上人口が14歳以下人口を上回るなど、高齢化の進展が顕著。世帯あたり人員も、1955年には1世帯に4.63人で、2005年には2.06人。一人っ子の増加や三世帯家族の減少、高齢化による単身世帯や夫婦のみ世帯の急増などもその背景にあります。

Style 1 上町台地の 1 時空につながる扉から

大人から子どもへ 伝えるところ

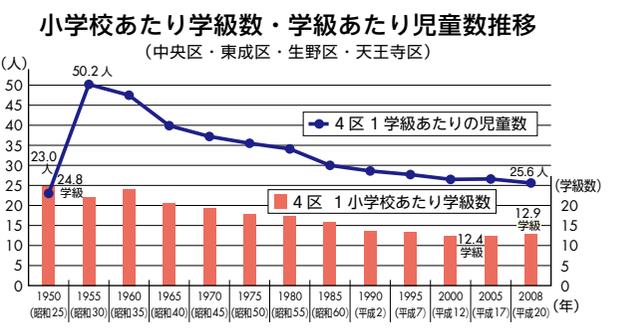
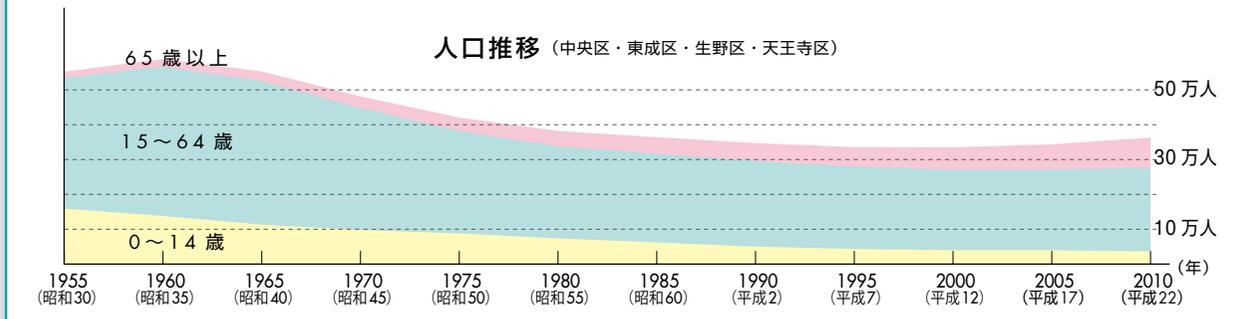
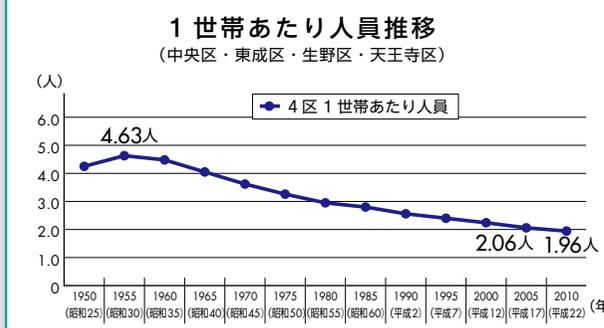
かつて上町台地にも、大人と子どもの豊かな出会いの風景がありました。現在では、そんな風景の多くはすっかり姿を消してしまったかのようです。けれど、実はいまも、昔子どもの大人たちから将来大人の子どもたちへ、上町台地のこころを伝える取り組みがまちのあちこちに息づいているのに気づかされます。

大人たちから子どもたちへ、地域の文化や地域とつながる暮らし方を伝えていく、上町台地ならではの多彩な取り組みの数々や思い出語りを通して、子どもたちを育むまちの力を見つめました。



データで見る“上町台地の子”の戦後

(データ資料出典: 国勢調査、大阪市統計書)



大人から子どもたちへ伝えるころ、思い出のつづやき

『「まちの子」想いの大人がいっぱいた戦前の仲良し下町』

清水谷高校のグラウンドは昔、清水谷公園という遊び場や図書館もありましたが、もっぱら木登りや隠れん坊をしたりと、広い公園で年長も年少も隔たりなく毎日夕暮れまで遊んでいました。戦前・戦中には少年団という組織もあって、進軍ラッパを吹いて行進の練習をしたり、町内から出征する人の見送りを大人と一緒にしたりしていました。いろいろなものが配給制になり、暮らしても大変だったと思いますが、よその家ごはんを食べさせてもらうことはありましたし、うちの家で友達とよくごはんを食べていました。町内で商売されている家も多かったのですが、昼間もたくさん大人がいましたし、みんな顔見知りだったので、子どもたちもゴソタをしていてもすぐにはばれてしまいます。大人たちからすれば、自分の子どもでなくても「まちの子」という感じで、我が子同然にみんな接していたのではないのでしょうか。戦後は疎開先などからまちに戻ってくる方も少なく、戦前と戦後でまちのつながりがガラッと変わってしまった気がします。互いにいろいろあっても、子どもも含めてまちが一つになっていた時代に育って良かったと思います。

〔天王寺区旧清水谷西/町あたりでの昭和15(1940)年頃の想い出〕

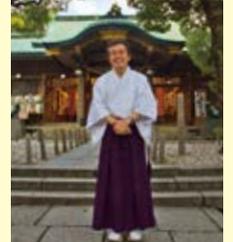
いつか思い出す“気づき”のための1泊2日 [高津宮夏休み宿泊体験]

小学生の子どもたち30名が、境内で1泊2日をとともに過ごす宿泊体験を、2004年の夏から行っています。まちのなかの神社の存在を知ってもらうことはもとよりですが、年齢差のある子どもたち同士で2日間をとともにしたり、銭湯体験など普段は縁遠くなったまちの暮らしを経験したり、ボランティア・スタッフや訪問先で出会う多様な大人とのふれあいなど、私たち大人が子どもの頃にはそれが普通でありながら、現代ではむしろなくなった経験・体験を積んでもらうことも目的としています。おとなしくなった現代の子ですが、30名と過ごす2日間は大人にとっても良い経験になります。とは言え、子どもたちのパワーに押されればなしですが(笑)。親御さんたちの積極さや寛容さにも支えられてこの事業ですが、神職に就く前から夢に描いていた社会福祉を、子どもたちとの時間を通して少し叶えてもらっているようです。子どもたちにも高津宮での夏休みの2日間を、いつかいろんなかたちで思い出し、何かしら“気づき”を得てもらえれば幸いです。



夏休み宿泊体験2日目は朝の体操からはじまります

小谷真功さん 高津宮宮司



〔高津宮宿泊体験〕は夏休み中の2日間に実施されます。参加対象は集合・解散時に保護者の送迎が可能な小学生。定員は30名で、応募多数の場合は抽選となります。1日目のお昼過ぎから2日目の夕方まで、小1から小6までの年の差のある子どもたち同士が、ボランティア・スタッフの大人たちと過ごします。毎年変わる多彩なメニューも魅力です。



お問い合わせ先 高津宮社務所 TEL: 06-6762-1122

共同生活から、何かしら“気づき”を得てもらえれば。

子どもへ伝える町衆の伝統と心意気 [東地区子供太鼓中]

旧東区内の生國魂神社氏子衆が担う枕太鼓は、神社の夏祭りや神輿や獅子舞などとともに知られています。勇壮な枕太鼓は大人が担いますが、子どもたちは「子供太鼓」を通じて太鼓と祭りに親しみながら、祭事や礼節を学んできます。祭りの10日間ほど、中大江公園と農人橋近くの御旅所を稽古場に、中大江・南大江両小学校に通う子どもたち有志が練習に励みます。最初は少し教えますが、基本は「見て覚える」。直前の日曜日には太鼓中の面々が稽古場へ出向いて、子どもたちに稽古の様子を見せます。私たちもかっこえ先輩の姿を手本に、見よう見まねから入りました。祭りはやんちゃな大人たちが楽しくもピシッとやっている。その姿への憧れも伝統継承の一つのカギではないでしょうか。祭りになれば大人も子どもも対等です。どちらもたくさんいると楽しくなる。最近はやんちゃ予備軍が減ったように思いますが、それでも先輩の姿をじっと見ている子どももいます。自然と伝わるものほど強いものではないでしょうか。

田中俊彦さん 枕太鼓 太鼓長



東地区子供太鼓中は生國魂神社の旧東区内の氏地にあたる中大江・南大江両小学校区の子どもたち有志が参加しています。太鼓の蔵出しや諸会合のち、いくたま夏祭(7月11日・12日)の10日以上前から連日行われる稽古は、中大江校区は中大江公園、南大江校区は御旅所(行宮)をそれぞれ稽古場としています。太鼓中の方々のほか、PTAや子供会の役員、青少年指導員など多彩な大人が世話役として子どもたちをサポートしています。



お問い合わせ先 生國魂神社 TEL: 06-6771-0002



まちなかを練りまわる、いくたま夏祭の東地区子供太鼓中

いくたま夏祭で、太鼓と祭りに親しみ、祭事や礼節を学ぶ。

『三世代で遊んでくれた近所の石材屋さん一家』

高度経済成長期だった昭和30年代。うちの近所に石材屋さんの立派な家と石材置き場がありました。三世代でお住まいで、4人姉弟の次女と私が同級生だったこともあって、よく遊びに行きました。家へ抜ける路地と石材置き場が格好の遊び場で、日が暮れるまで遊んでいました。夕暮れになると「ごはんでも食べていき」と家族一緒に食卓に誘ってもらいましたし、ときにはお風呂にも入らせてもらいました。子どもたち同士で入るお風呂もとても楽しかったです。孫には厳しい職人気質のおじいさんとおばあさんは、私には何かとやさしかったことを覚えています。おかあさんも家事を切り盛りしつつも、私の分まで食膳を用意してくれたり、印刷業だったおとうさんは、余った商品のレッテルを折手土産にくれましたが、それが子どもたちの宝物でもありました。夏は泊まりがけで遊んでいました。石畳の路地で火花をしましたが、長屋の人たちも床几を出して夕涼みをしながら、一緒に楽しんでいました。10数年前に郊外へ引っ越され、跡地はマンションになりましたが、子どもの頃の街並みや人のつながりは今も心に残っています。

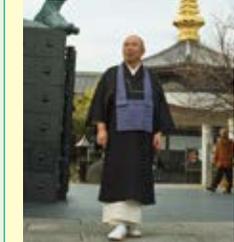
〔旧南区北桃谷町(現中央区上本町西1丁目)あたりでの昭和35(1960)年頃の想い出〕



人形劇を通じて寺町と出会う子どもたち [なにわ人形芝居フェスティバル]

一心寺をはじめ下寺町のお寺を舞台に開催する「なにわ人形芝居フェスティバル」は今年で14回目となります。阪神・淡路大震災とオウム真理教事件が相次いだ1995年。お寺がもう一度地域とつながっていかないと考え、あれこれと案案していました。特におかあさんと子どもたちとつながることを考えていたときに出会ったのが人形劇でした。調べてみたら人形劇の劇団がプロ・アマたくさんあることも分かり、「お寺の本堂や境内で演じてもらったら……」とさっそく準備に掛かり1996年に1回目を開催しました。普段は高齢の檀家さんしか訪れない下寺町界隈に子どもたちや若いおかあさん方がたくさん行き来し、お寺の関係者はみんなビックリ。お寺が初めての子どもにとっても、門扉のなかの広い境内や大きなお堂、たくさんのお墓などは新鮮なようでした。夏休みには一心寺で地蔵盆フェスティバルも開催していますが、こうした楽しい機会を通じながら、子ども心に寺町の街並みや境内の風景、お坊さんの姿などを自然と刻んでもらえれば何よりです。

高口恭行さん 一心寺長老



〔なにわ人形芝居フェスティバル〕は毎年4月の第一日曜日に開催されています。最近では隔年で一心寺を中心に下寺町での開催と上町台地に広く会場を展開する開催を交互に実施し、2010年は拡大版での開催の予定です。〔地蔵盆フェスティバル〕は毎年8月24日の夕方に開催される一心寺の仏事で、たくさんの方でにぎわいます。



お問い合わせ先 なにわ人形芝居フェスティバル実行委員会 TEL: 06-6774-2877



人形芝居フェスティバルで演じられた南京玉すだれ(安居神社)

お寺がもう一度地域とつながっていくために。

子どもの健やかな成長を願う地域の心の継承 [将軍地蔵尊子供盆踊り]

五条小学校の校門前にたずむ将軍地蔵尊は、天保14(1843)年に火事・雷除けや子どもの守護を願って建立された由緒あるお地蔵さんです。戦後の1953年に現在地へ移転されましたが、そのお地蔵さんを囲んでの地蔵盆は昔も今もとてもにぎやかです。毎夏8月23・24日に小学校の校庭には盆踊りのやぐらが組まれ、住民の手によるたこ焼きやかき氷などの屋台もたくさん並びます。2003年にはお地蔵さんの修復と覆い屋の新築を行いました。その際も地蔵尊と地蔵盆に親しんでこられた住民の寄付がたくさん集まりました。地蔵盆の手伝いもお地蔵さんの世話も「私も子どもの頃に地蔵盆で楽しませてもらったから、今の子どもたちにも楽しんでほしい」という想いで、みなさん関わってくれています。新しいマンションも増えて、子どもたちも多くなっていますが、地域の未来の担い手でもある子どもたちに「子供盆踊り」で楽しい思い出を持ってもらい、健やかに成長した暁には、次の子どもたちを温かく育ていく地域の大人になってもらえれば幸いです。

神田晃治さん 将軍地蔵尊保存会総代、(株)カンダオブティカル代表取締役会長



〔将軍地蔵尊子供盆踊り〕は将軍地蔵尊前(五条小学校西門前)と校庭で8月23・24日午後6時30分より開催されています。地元10町会のご協力と100名余りの住民が企画や準備、PRや当日の運営、後片付けを担当しています。お菓子(両日とも午後9時頃)はおもろん、子どもの成長を願ってつくったお守りもいただけます(無料)。



校庭に組まれたやくらを囲んで盆踊りの輪が広がります

地域の未来の担い手たちに楽しい思い出を。



お問い合わせ先 将軍地蔵尊保存会・神田さん TEL: 06-6772-2775 (株)カンダオブティカル内)



大人から子どもたちへ伝えるところ、思い出のつづやき



『田舎のように子どもも大人もみんな顔見知りだった』

上町台地 振興町会長 山本良一さん

まだまちなかに名残がありますが、空襲で焼け残ったところが多かった旧東平小学校の校区内は、戦後もずっとお寺に町家、そして路地と長屋のまちでした。子どもも大人も互いの顔を知っているまちでしたので、誰彼なくよく声を掛けられましたし、路地の盆栽を倒したりしたら、「ごめんなさい」と子どものほうから先に謝っていました。小学校を中心にしたつながりも強かったのですが、だれがやんちゃでガキ大将か、PTAはもとより町内のだれもが知っていたと思います。だから、子ども心にも「ちゃんとしなさい」という気持ちに自然にありました。特にうちは400年続く老舗ですし、その「ぼん」でしたのでなおさらです。また、うちの父親もこのまちで育っていますから、近所の大人も父親の友だち、先輩・後輩だらけです。ですから、大人同士もやんちゃはしても、度が過ぎる羽目は外していませんでした。母親に言われて、夜警のあととみんなで飲んでいる父親を迎えに行くこともありましたが、そこも顔見知りのおっちゃんばかりでした。だから顔を覚えられているまちでは、子どももしっかりまちの一員だったように思います。

（旧南区上汐町1丁目（現中央区上汐1丁目）あたりでの昭和30（1955）年頃の思い出）

伝統行事の復活で子どもとまちをつなげる [方除地蔵子ども祭り]

上町台地の東縁にある東上町と筆ヶ崎町は、東筆という一つの町会を構成していますが、その町内に方除地蔵尊があります。昭和30年代までは地蔵盆が行われていましたが、いつの間にか廃れていました。そこで、2006年の夏から「方除地蔵子ども祭り」として地蔵盆を復活させました。祭りは地元のみなさんによる手弁当のイベントで、焼きそばや射的など楽しい屋台が並びます。なかには地元の有名焼肉店の屋台もあり、毎夏大勢の子どもたちや親子連れで地蔵尊前の東上町公園内にはぎわいます。町会内では市街地再開発が続き、人口も増えるなか、つながりづくりが課題になっています。祭りは、子どもたちが地元で楽しい思い出を持って育つように企画しましたが、一緒に保護者の方も来られるので、私たち町会メンバーなども出れます。さらに、子どもの楽しそうな姿がまちに増えることで、お年寄りにも喜んでもらえているようです。子どもたちがまちなかで楽しめる機会を増やすことは、子どもだけでなく大人にとってもまちでの出会いとつながりに結びつくように感じています。



住民の手づくりで実施されている方除地蔵子ども祭り

服部多嘉男さん 東筆振興町会長



「方除地蔵子ども祭り」は毎年8月23日の夕方から大阪府立中央授産場の東にある東上町公園で開催されています。地元町会の方だけでなく、どなたでも参加できる祭りです。JR大阪環状線と玉造筋のあいだに残る懐かしい並みの東上町と、再開発が進む筆ヶ崎地区から成る東筆振興町会では、コミュニティの継承に日々知恵が絞られています。



お問い合わせ先 服部商店（服部多嘉男さん） TEL: 06-6771-6588

子どもの笑顔から、地域のつながりをもう一度。

共生社会の未来の担い手を育む [生野コリアタウン人権研修プログラム]

在日コリアンが多い生野区コリアタウン界隈を舞台に、さまざまな差別や社会障壁に苦しみながらも生きる在日コリアンの姿とその豊かな文化に触れながら、人権を学び、共生について考える人権研修プログラムを続けています。在日コリアンの歴史や抱える課題などをしっかり学んでもらう一方、キムチづくりや民族楽器演奏などの楽しい体験メニューも揃えています。大人でも子どもでも学べますが、楽しみながら、でもしっかり学んでもらうというスタンスで内容を充実させてきました。定着してきた「韓流」に乗って、コリアタウンや在日コリアンへの関心も高まってきています。修学旅行や人権研修でやってくる子どもたちのなかには、プログラムにはまだないコリアンの芸能文化を知っていたり、体験メニューだけでなく、在日コリアンの歴史などを「もっと学びたい」と言ってくれる子どもたちもいます。コリアタウンに来ることを楽しみにし、よく学んでくれる子どもたちが増えていく様子を見てみると、共生社会の未来に明るさを感じずにはいられません。

郭辰雄さん (特活)コリア NGO センター



（特活）コリア NGO センターの前身である各団体が1990年代初頭から単発で実施していた人権学習が、旅行代理店などの連携により発展、受け入れプログラムの一層の充実が図られました。キムチづくり体験やハングル入門講座などの体験学習とまちを歩きながらのフィールドワークから構成され、在日コリアンの暮らしに触れながら、多民族共生や韓日の歴史などについて学ぶことを基本としています。毎年8～9千人の子どもや大人が学んでいます。



お問い合わせ先 (特活)コリア NGO センター TEL: 06-6711-7601



韓国の民族楽器をみんなで演奏体験中

在日コリアン文化に触れ、まず自分で考えるところから。

絵本で出会う子どもと異文化 [アイハウス外国語絵本読み聞かせ“アイアイ”]

大阪国際交流センターで2007年からはじまった外国語絵本読み聞かせ「アイアイ」は、子どもたちに絵本を通じて英語や中国語、韓国語などに会ってほしい、外国の文化に触れたいという場です。ボランティアも日本人と各国の人たちが参加していて、絵本の読み聞かせだけでなく、出身国での歌遊びや手遊びをプログラムに加えたり、ボランティア同士で毎回、創意工夫を凝らしています。主に就学前の子どもたちが親御さんと来られますが、日本人だけでなく外国人の親子連れも来られます。また聞いているだけでなく、参加者の親子同士が出会う機会もありますし、出会いを通じて異文化への理解をより深めてもらえるようです。私たちボランティアもそれぞれの母国語や勉強してきた外国語を活かす機会にもなっていますが、毎月来てくれる子どもたちの成長ぶりに、子育ての記憶がよみがえる楽しいひとときにもなっています。センター内には喫茶店もありますし、西側には上汐公園もあります。お子さんとの午後のお散歩がてら、気軽に立ち寄ってもらえるとうれしいです。



子どもたちを連れて親御さんたちの交流の場にもなっています

伊藤美恵子さん 北中公子さん 康南姫さん 読み聞かせボランティア



「アイアイ」は大阪国際交流センター1階インフォメーションセンター内の交流スペースにて、毎月第2火曜、第3木曜（いずれも15:00～15:30）、第4土曜（14:00～14:30）の月3回開催されています。読み聞かせ時間の前には会場での交流の時間にもなっています。参加申込や参加費は不要で、どなたでも気軽にご参加いただけます。



お問い合わせ先 (財)大阪国際交流センター 情報企画部 TEL: 06-6773-8989

出会いを通じて異文化への理解を深めてほしい。

『子どもたちと丁々発止のやりとりをしてくれた近所の働く大人たち』

戦前から家の前はとてにぎやかな商店街でした。うちも飲食店を経営していたので、近所ではいわゆる「ぼん」としてみんなに覚えられていました。向かいには日本刀などの研ぎ屋さんで、出征する軍人さんたちの軍刀をよく研いでいたが、それを眺めて過ごすこともありました。研ぎ師のおっちゃんのはぞき込んでいても、黙々と作業をされていたのを覚えています。尋常小学校3年生のときに日本は太平洋戦争へ入りましたが、子どもたちは銭湯めぐりに動んでいました。開店直後の空いている銭湯は、私たちに温泉水のようなもので、子ども同士で散々はしゃぎまわっていました。銭湯ごとに番台さんによっては優しい人と怖い人がいて、子ども同士で情報交換しながら、はしゃげる銭湯を巡っていましたが、きっと番台さんたちから見れば「いつもの連中や」とお見通しだったのでしょう。その後は疎開、終戦。そして闇市などの混乱期を過ごしましたが、次第に大人たちも子どもにも構う余裕がなくなってきたように思います。まちのいろんな大人に見守られながらやんちゃに遊べたあの頃を、今も楽しく思い出します。

（東成区旧猪飼野大通1丁目（現玉津3丁目）あたりでの昭和15（1940）年頃の思い出）



小川治海さん 大阪府立中央授産場 振興町会長

『家族のような近所のなかでは、どの大人もオモニ・アポジだった』

大阪万博でまちも活気づいていた頃。旧北生野町あたりはアパートや長屋が建ち並び、路地が入り組んだまちでした。当時の近所には本当に在日コリアンが多くて、六畳一間に家族6人といった風景が普通でした。うちの家は表通りに面していて、ハイカラなアポジ（父）のおかげでテレビや電話も早くからあったので、電話の呼び出しに路地を走るといったこともありました。子ども同士も遊ぶだけでなく、年長の子どもが近所の小さい子の子守をしたり、親の帰りが遅い子を預かったり、互いの家の出入りが自由だったこともあって、近所が一つの家族のように暮らしていました。うちのオモニ（母）は特に子ども好きで、私たち兄妹4人だけでなく、親戚や近所の子どもの面倒も分け隔てなく見ていました。だから、私たちも友だちというより兄弟姉妹みたいな感じでした。今も時折、オモニと出会うと「今も頭が上がりんわ」という「昔子ども」ばかりです。そういう私たち兄妹も近所の大人たちには毎日世話になっていました。どの大人もオモニ・アポジだった夢のような頃でした。

（生野区旧北生野町（現生野東1丁目）での昭和45（1970）年頃の思い出）



頑張り子どもを見て俺たちおやじも仲良く応援。

まちを楽しく変えていく [大阪市立大池中学校PTA おやじバンド]

PTAの役員や元役員である日本人と在日コリアンのおやじ、校長先生をはじめ教員のおやじ10名で結成されているバンドです。結成のきっかけは5年前、だれもなり手がなかったPTA会長に、在日コリアンのおやじが「それじゃあ私が」と立候補したことでした。一部から「在日コリアンの会長は前例がない」との声が上がって、結局前会長が留任。立候補したおやじは副会長にということで、PTAが発足したのは10月半ば過ぎでした。何かしらモヤモヤ感が残ったことから、翌年のPTAでは役員会や夜間視察などのあとの「反省会」で「子どもたちも日本人と在日が一緒にがんばっているのに、俺たちおやじも何か応援できないだろうか」と話が弾み、だれかが「バンドでもやらか」と言い出しました。2005年10月にバンドを結成し、2006年4月にはバンドメンバーが在日コリアンで初めてのPTA会長に選出されました。バンドは学校行事のほか、地域の行事やイベントなどにも多数出演し、今では子どもたちや学校だけでなく地域を元気にする取り組みの一端も担っています。



生野コリアタウン 共生まつり2009に出演

古川正博さん 大阪市立大池中学校教諭



「おやじバンド」は楽器が弾けなくても歌だけで参加OK！ テレビや新聞でもその活動が紹介されて、大阪市内はもとより関西を中心に各地から、人権講演会やイベントなどの講演・演奏に招かれて、「生野区発・多文化共生のメッセージ」を発信しています。練習後の「反省会」が練習時間よりはるかに長いのもご愛敬です。



お問い合わせ先 大池中学校 古川正博教諭 TEL: 090-4278-6127

※それぞれの談話等は2010年1月時点のもの。肩書、所属等は当時のものです。

暮らしによりそう 手仕事・ものづくり

私たちの日々によりそう、ご近所のお店屋さんや職人さんのなかに、血の通ったまちづくりの礎ともなる暮らしや生業の哲学が、しなやかに受け継がれています。そう思って上町台地境界を見てみると、日常の食べ物や生活用品やサービスなどを通して人とまちをつなぐ、なんとたくさんの手仕事やものづくりや商いのプロフェッショナルが存在していることでしょうか。まちと暮らしを見守り支える、まちなかのプロフェッショナルの幾人かを訪ね、その手のぬくもりとまなざしの向こうに、世代を越えてつながる上町台地の未来を見つめます。

「繊維のまち」と呼ばれた大阪らしく、服飾関係の業種が多く見られます。上町台地では紳士服関連の業種が中心ですが、地図では谷町境界を中心に布地や織物などの素材、上町台地に南北に広がるボタン、JR環状線沿いに立地する刺繍や洋服プレスなどが特徴的です。

また、勝山通沿いに立地するハンドバッグやカバンの製造・卸、玉造から縁橋にかけての帽子製造・卸など、身の回り品に関する業種もいくつかみられます。

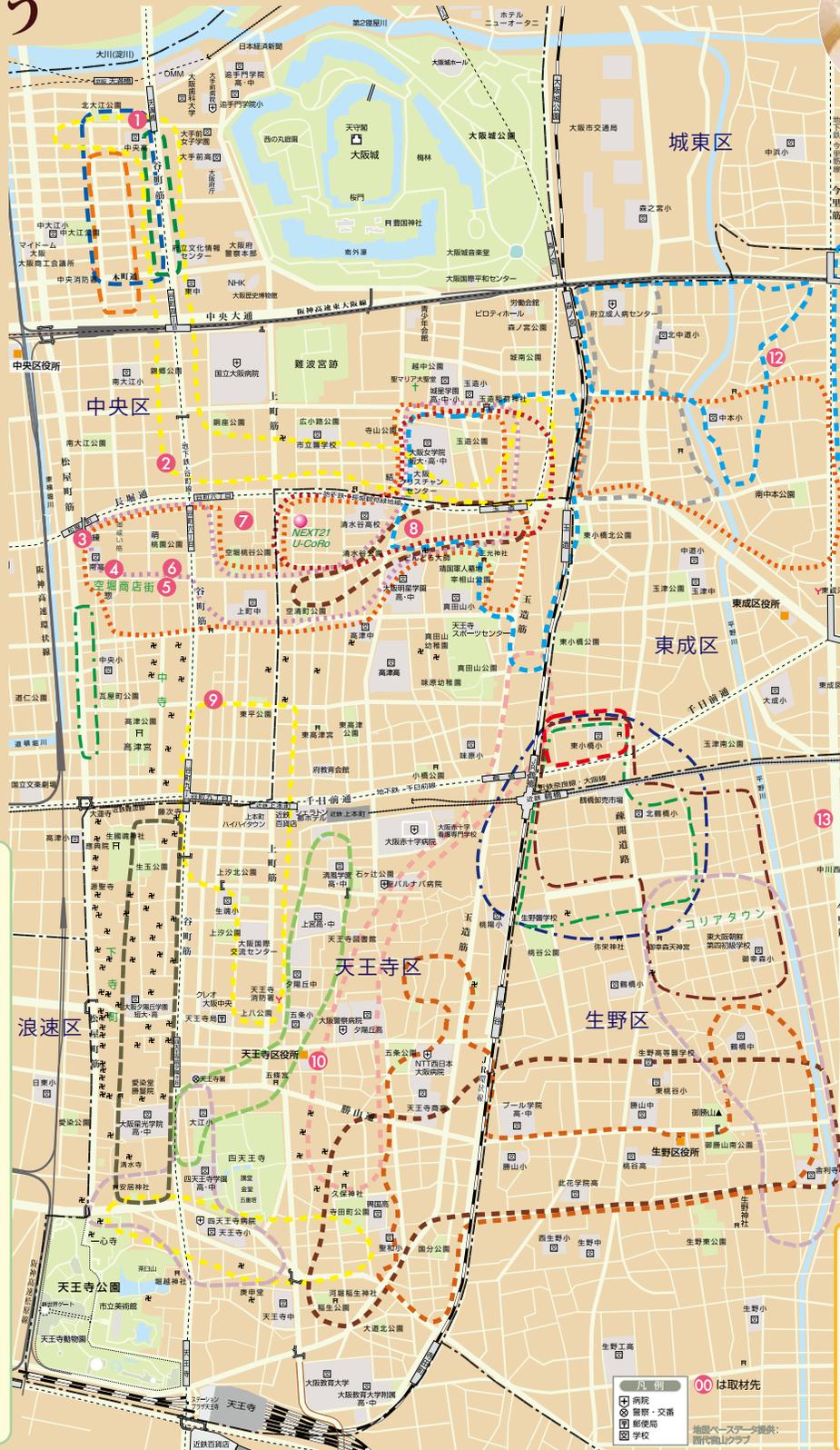
「食いだおれのまち」としては鶴橋境界に広がる海産物や乾物などの製造・卸、コリアタウンらしい韓国・朝鮮料理食材商、そして松屋町筋にもみられる砂糖商が挙げられます。

印刷関係では紙裁断所や紙加工所、紙器が松屋町から玉造にかけての長堀通沿いにみられます。この境界では、印刷屋さんのカッチャンカッチャンという音も聞こえてきます。

寺社の多い上町台地らしさが表れた業種もみられます。神棚や神輿などを扱う神具、仏壇・仏具、墓石です。

上町台地 手仕事・ものづくりなりわいマップ

上町台地境界で今も営まれる職人色の強い業種のうち、同業種が比較的固まって立地している境界を地図に示しています(印刷業全般や紳士服の製造・卸などのように、広範に単独で立地している個々の事業所の情報は除いて、同業種が固まって立地している場合だけを示しています)。それぞれの業種の立地には、まちと人が折り重ねてきた時が垣間見えます。



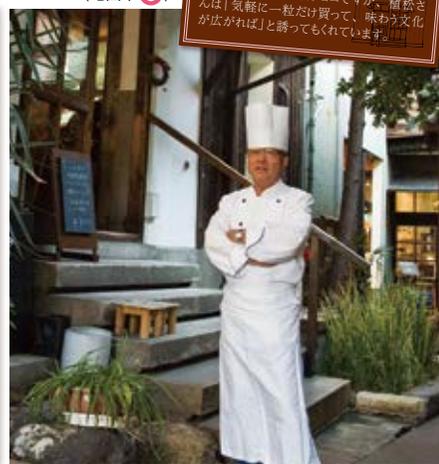
まちなかの プロフェッショナル訪問



チョコレート

「エクチュア」植松秀王さん

空堀の街並み再生のシンボル施設「練」その蔵で営業しているのが、チョコレート専門店「エクチュア」です。シヨコラティエでもある植松さんが、人通りの多い心斎橋から静かな空堀へ、本店とチョコレート工房を移して7年余、職人技が光るチョコレートは、空堀の人たちにも受け入れられてきました。四半世紀前まだ専門店がほとんどなかったチョコレートの世界へ飛び込み、腕を磨いてきた植松さんは、「商売はまちの人に認められてこそ」と近所付き合いも欠かしません。高津宮の菓子菓子づくりにも、洒落っ気たっぷり、でも味は本格派の「ジンジャー・チョコレート」で参画。「近所の女の子が、一粒だけ買いに来てくれたときはうれしかった」と語りながら、チョコレートを通じて、まちの生活文化が豊かになっていくことを夢見しています。



(地図中③)

チョコレート店
ベルギー製をはじめ輸入品も増え、専門店もあちこちで見かけますが、20年ほど前までは大手メーカーの板チョコが中心でした。シヨコラティエと呼ばれるチョコレート職人が、工場生産では味わえない技を誇っています。高級チョコですが、植松さんは「気配に一粒だけ買って、味わう文化が広がれば」と誇って見えています。



高津宮の菓子菓子としてつくられた「ジンジャー・チョコレート」



職人氣質に併せ持つ、洒落っ気と気さく

和洋菓子関係の氏子さんたちが「氏子菓子委員会」なる組織をつくって、ご奉仕いただいています。空堀へ来られたときからよく参拝されている植松さんも、氏子さんの縁で加わってもらえました。洒落っ気がありながらおいしい「ジンジャー(神社)・チョコレート」は、ダンディでありながら気さくな職人さんである植松さんそのものです。



ボタン屋(紳士服縫製副資材) 大阪駅前第4ビル地下と船場センタービルなど、服飾関連の小物を扱う店が多いところもありますが、昭和40年代くらいまでは家々にミンシもあるって、家庭での手芸や裁縫も盛んでした。一般向け小物を扱う店は一時減りましたが、近年の雑貨ブームに乗って、ボタンなどを扱う小売店もちらほら見かけるようになってきました。

まちに育てられた若いまちっ子が、まちの次代を育む (地図中①)



「丸善ボタン」岸本知子さん

丸善ボタンは、昭和26年に天満橋で創業したボタンなどの紳士服用縫製副資材販売卸の会社です。繊維のまちだった大阪で、谷町境界は紳士服関連の店や職人の多いまちでした。その流れを汲む丸善ボタンを率いるのが若い三代目の岸本さん。大学では建築を学び「まさか社長になるとは(笑)」と、思っていた岸本さんは、ガラス張りの1階をギャラリーに改装しながら、まちとの距離を縮めてきました。地域が主催する年に一度の音楽イベントも、楽器づくりの職人さんやお米屋さんなど境界の人たちとともに、「ご近所さん」の一員としてこなしています。「大勢の大人や職人さんがつくる小物に囲まれて育ったからかな」とは、かみつつ、昔ながらのまちっ子らしい感覚で、モノと暮らしにこだわりながら、今日も会社と地域をつないでいます。



ボタン



地域のイベントにも会場を提供して参加

ギャラリーでは若い作家たちの作品などを企画展示

衣服・身の回り	帽子製造・卸	印刷関係	紙裁断所
綿織物	カバン製造・卸	紙加工所	紙加工所
毛織物	ハンドバッグ製造・卸	紙器	紙器
絹織物	食品関係	宗教関係	神具
服地商	海産物、漬物、乾物	神具	仏壇・仏具
洋服プレス	韓国・朝鮮料理食材	仏壇・仏具	墓石
ボタン	砂糖商	墓石	
刺繍			

※取材内容等は2011年2月時点のものです。



印刷屋さん
大阪の地場産業の一つでもあった印刷「カッチャン、カッチャン」といえば、京都西陣では機械織りの音ですが、大阪のまちなかで印刷屋さんの音。デジタル化が進むなか、活版印刷から生み出される印刷物の凹凸感や手触りを機かくし思い出す方もいららっしゃるのでは。若い世代の感性にも、活版印刷の奥深さが届きつつあります。

活版印刷 まちなかの活版文化を、若い世代へ刷り込む

(地図中12)



活版印刷

「上田印刷所」上田秀雄さん

活版印刷をご存知ですか。今では家庭でもプリンターで印刷できますが、印刷も本来は職人さんの領域です。活版印刷は文字一字ずつを組み合わせて印刷する方法で、新聞や雑誌など多様な印刷に対応できます。現代の活版印刷も、もとをたどればグーテンベルクの発明から基本は変わっていません。字を彫り、版を組み、色を合わせと分業の世界ですが、「丁稚奉公」の時から、自然に覚えてしまった」と上田印刷所の上田さんはすべてを一人でされます。「もう引退やる筈」と思っていた矢先にはじまった、大阪の若いデザイナーとの協働事業に、技を伝えたいという思いがまた湧いています。

コメント 偶然出会えた活版印刷から広がる縁と創造
花村周寛さん(関西活版倶楽部理事)から
緑橋の印刷工場跡を借りて、2年前にアート拠点「b(フラット)」を設けたとき、一角で小さな印刷所をされている上田さんに出会いました。それまで活版印刷なんて、まったく知らなかったのですが、アツという間にその技や印刷物の質感などの虜になりました。若い印刷屋さんたちと「関西活版倶楽部」を立ち上げ、模索をはじめました。

機器製造 技を磨き、まちを磨く、たゆまぬ向上心

(地図中13)

機器製造

「旭進ガス器製作所」吉村健一さん

大阪の下町育ちなら「一家に一台の思い出も多かったご焼き器、業務用のたこ焼き器やお好み焼き器など、ガス器の設計・製造・販売の旭進ガス器製作所は、まだ町工場がそこかしこに見られる生野区中川西にありまます。大阪らしい看板が目印の工場では、さまざまなガス器が製作されていますが、それぞれ注文主と吉村さんの想いが詰まった一品ものです。「ものづくりには到達感はなく、常に向上心のみですわ」と語る吉村さんは、「近所付き合いから地域イベントまで大活躍です。それままたの住み心地を向上させたいという職人気質の表れかもしれません。」



機械製造
戦前には「東洋のマンチェスター」との異名も持った大阪は、金属加工や機械製造も盛んでした。大阪湾沿いの大工場や京阪沿線の電器メーカーを頂点に、中小工場のネットワークが築き上げられていたが、今でも生野・東成区内には「知る人ぞ知る」という技術を持った町工場が数多く見られ、地域の誇りにもなっています。



吉村さんのご近所づきあい

取引先の木工場にて

近所の塗装工場

喫茶店で打ち合わせ

町工場の若者と

U-CoRoも協力 大阪・生野の職人さんめぐり

2011年夏、吉村健一さんにご案内いただいて、生野の職人さんの仕事の現場にうかがいました。見学会に参加した人たちも、熟練の技術を目の当たりにして、まさに驚きの連続でした。

開催日：2011年8月2日
主催：上町台地・職人研／丸善ボタンの街
協力：大阪ガスCEL／U-CoRoプロジェクト・ワーキング



訪問先の木工所で目にした「挽き物」技術は、熟練の技そのもの

金属関係の製作所では、「へら絞り」の加工技術に感嘆の声が上がりました

花

花もまちも近所も、丁寧に生ける

(地図中9)



花屋
私たちが商店街やまちなかでよく見かけるのが町花屋。そのほかに、お葬式や法事の際の花を扱う店や、お墓への供花を扱う店もあり、花屋は花屋のなかでも専門店と言えます。生け花までこなす仏花の専門店は少ないようで、花屋には京都のお寺からも注文があるそうです。最近では花屋を開業する若い世代も増えてきています。

「花熊」山本良一さん

慌ただしい日常のなかで草花に接する機会はお持ちですか。家の内外をちよつと飾る切り花や鉢植えを扱うのがお花屋さんです。なかでも上町台地らしいのが、法事や仏事で使う仏花を扱う生花店。お寺の多いまちならではのですが、花熊は約四百年前の寺町形成立後から南売を営む老舗中の老舗。二人っ子だったから、継がなきゃいけなかったと笑う山本さんは、全国を回って花木を目利きし、生け花として美しい形で仏花を納める職人でもあります。「人のためなんて格好悪いやろ。自分のためや(笑)」と言いつつ、まちもそこに暮らす人々も「自分自身と同じ」と、まちへの愛情も花と同じく豊かです。

生まれるときからそばにある帽子とまちへの愛着

(地図中11)

帽子



桂さんの帽子は地域の人たちの愛用品(「燈」の年越しカウントダウンイベントほかにて)

「桂(key)」桂田秀人さん

緑橋の再生された町家「燈」で、ガラス越しに映える帽子の数々。創作帽子屋「桂」ではたくさんの帽子を、質感あふれる店内で手に取ることが出来ますが、帽子は地元緑橋界隈の地場産業でもありません。お店を営む帽子職人の桂田さんも生粋の緑橋っ子。帽子づくりに長年携わりながら、小売も考えていましたが、出店したのは子ども頃から身近にあった町家のなか。帽子業界の活性化はもとより、お店を出す町家、そして地域の活性化も見据えて、「燈」でのイベントでも手弁当でがんばっています。「生まれ育ったところやからね」とさりげなく言いつつ、帽子とまちに日々愛情を注がれています。



帽子同様に注ぐ、他者への目配り、気配り

コメント 六波羅雅一さん(六波羅建築研究室代表)から
桂田さんとの出会いは「燈」を修築する前の見学会のときでした。中崎町などでもお店を検討されていたそうですが、「ここに入る」と一言。表面的な部分だけでなく、ディテールにまでこだわった職人らしく、「燈」のご近所さんや他店のお客さんにも目配り、気配りされる姿は、まさに職人さんそのものという感じでした。



竹で作った花立て

※取材内容等は2011年2月時点のものです。

寿司

基本を守り、工夫を加え、 寿司と客、まちに向き合う

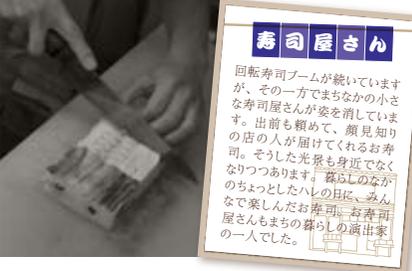
(地図中⑧)

「弥助寿司」徳力修司さん

空堀町の長屋に、夕暮れ時に暖簾が掛かる一軒が寿司の弥助。こだわりの一品でもある伝統の大阪寿司も「基本は変えない」と言いつつ、下ごしらえなどは日々工夫を重ねられる。店主で寿司職人の徳力さん。その店内には、お父さんの代からの昔ながらのまちのお寿司屋さんの雰囲気を残しつつ、冷蔵ケースを取り払い、カウンター越しのやりとりを大切にしようとする想いが満ちています。「お客さんとはフイフイ・フイフイの関係」と言う徳力さんは、職人としての日々の小さな積み重ねとともに、お客さんとのつながりも大事にされています。先代から受け継いだ店で、地元のお客さんとの対等な関係、先人から培われてきたまち暮らしのほど良い距離感も、この店では味わえます。



先代から受けついで道具で味を極める



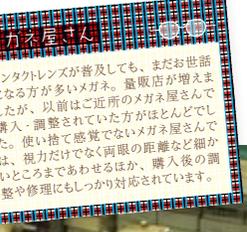
メガネとまちへのきめ細かい目配り

(地図中⑩)

「カンダオプティカル」神田晃治さん

上町台地の閑静な住宅街である五条地域、その一角にあるカンダオプティカルはメガネの製造業ですが、そこで作りだされるメガネはアイデアあふれる特許製品ばかりで、クリントン・元米国大統領やジョン・レノンなど世界中の人たちに愛されています。神田さんは父の下で幼い頃からメガネに携り、新製品の開発と、一人ひとりにあった正しいメガネづくりを長年邁進されてきました。

商店街や地蔵盆など地域活動にも熱心な神田さんですが「実は人付き合いが苦手。PTA役員を引き受けたのが運の尽き(笑)」と言いつつ、会社の広間を地域の寄合に開放するなど、メガネのようきめ細かい目配りで地域を下支えしています。「一人の手が不要になる世の中では、人も不要になる」と職人さんらしい目線でまちの今を危惧しつつ、未来への手もさりげなくこしらえようとしています。



コメント メガネと地域活動から伝わる、古き良き「旦那衆」の面影
富士原純一さん(南富士原文信堂代表取締役)から
神田さんはいろんな地域活動の大先輩ですが、いつもサポート役に回っていただくうちに、寄付金も頂戴したりとお世話になりました。そのうえ、メガネもお世話になっていますが、「メガネの調子はどないや」とこれまたいつも気に掛けてもらっています。古き良き「旦那衆」のありようを教えてください。



世界の著名人にも愛用者が多いという



地域の地蔵尊の保存会総代も務める(地蔵盆にて)

お米

お米を炊き込み、つながりを炊き込む

(地図中②)

「ウミタ食糧店」海田弘美さん

路地と長屋・町家がたくさん残っていた谷町5丁目界隈で育った海田さん。家業のお米屋さんを継いで10年余。文字通り手づくりのおにぎりは、クチコミで人気が広がりに向けて、夜明け前から、ごはんを炊いています。と「海田さんはお米マイスターの資格も持ちます。ご近所でのイベントなどで、ごはんのかまど炊き実演やおにぎりワークショップも展開しながら、お米への関心アップとつながりづくりも手仕事感覚で進めています。表通りから一本入ったまちなかで「女もする米屋稼業。海田さんのおにぎりが今日も店頭に並びます。」



地域イベントでもかまどでのご飯炊きを実演

お米屋さん
まちなかのお米屋さんは主食を支える大事なお店。精米機や店先に集まるスズメを思い出す方もいらっしゃるでしょうか。今では中央区内に数軒という状況ですが、スーパーなどで買う、精米後数ヶ月経ったお米ではなく、お米屋さんの精米したてのおいしさに親しんでみてはいかがでしょうか。

“親戚一同”の付き合い方がまちへ広がる

(地図中⑦)

「陽だまり」早川靖枝さん

長屋を再生したデイサービスセンター「陽だまり」。玄關脇のさりげない木製看板を見落とせば気づかない施設ですが、なかに入ると利用者さんとその家族、そしてヘルパーさんたちのにぎやかな日常が積み重ねられています。肩肘張らない「普通」を心掛けながら、細やかな気遣いが満ちあふれる施設では、日常の食事にもこだわり、「安くて良い素材でおいしい調理」をみんなに提供しています。施設長の早川さんへ「ここでは利用者さん、家族、ヘルパーが親戚一同という感じ(笑)」。代表の白石さんとも「利用者さんに接する名目で、施設へ行くのを嫌がる人も、白石さんの迎えと早川さんの対応に馴染むそうです。昔懐かしい長屋造りとご近所の風景とともに、職人空間が利用者さんの心を和ませているのかもしれない。」



食べやすいように料理を切り分け

福祉施設
病院は結構目にするのに、まちなかでは福祉施設と出会う機会は多くありませんでした。いつか家族や自分自身がお世話になるかもしれないところでありながら、確かな存在。「陽だまり」のような施設なら、その雰囲気やヘルパーさんたちの日々の奮闘ぶりも身近に感じられるのではないのでしょうか。



フォーラム 暮らしによりそう手仕事・ものづくり・まちづくり

event & workshop

まちなかのプロフェッショナルと都市居住文化の豊かな関係性、世代を越えてつながる上町台地の未来について語り合いました。

報告：菅井牧子さん(京都大学大学院工学研究科高田研究室)
講演：北川 央さん(大阪城天守閣研究主幹)
【トーク・セッション】
語り手：神田晃治さん(カンダオプティカル) / 吉村健一さん(旭進ガス器製作所) / 岸本知子さん(丸善ボタン)
コメント：北川 央さん / 中村智彦さん(神戸国際大学経済学部教授)
聞き手：高田光雄さん(京都大学大学院工学研究科教授)



左から、中村智彦さん、北川 央さん、岸本知子さん、吉村健一さん、神田晃治さん、高田光雄さん

開催日：2011年6月12日 / 会場：NEXT21ホール
主催：大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所(CEL)

※冊書、所属等はイベント開催当時のものです。 2011.6.12

※取材内容等は2011年2月時点のものです。

暮らしを支える生業今昔

豆腐と商店街に、毎日、手間暇を掛ける

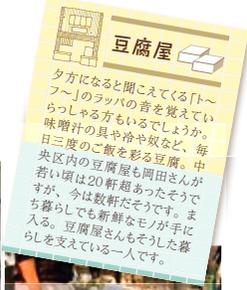
(地図中⑥)



豆腐

■「岡田屋本店」 岡田勝之さん

豆腐といえば、スーパーなどでパッケージ包装されたものにし、馴染みのない方もいらつしやるでしようか。まちなかの豆腐屋さんでは毎朝作りたての豆腐が、店先に並んでいます。明治42(1909)年創業という空堀商店街(はいからばり)の岡田屋本店もその一つ。クチコミで増える販路には、ミニミの有名飲食店も含まれています。「朝5時から2時間ほどでその日の商品を仕上げます」という岡田さん。今でも朝食のお豆腐を、開店早々に買いに来るご近所さんもらつしやるとか。お店を切り盛りしつつ、商店街の活性化に奔走し、若い人たちの地域イベントにも、厳しくも暖かい視線を送られます。



コソト 楽しい双方向を可能にしてくれる商店街人

寺西章江さん(にぎわい堂代表)から

10年ほど前に空堀界隈へ引越してきましたが、その魅力は商店街でした。長屋を再生した交流拠点「にぎわい堂」を開いて7年余。岡田さんの豆腐など、商店街の食材を使った食事も開催してきました。参加者の感想や質問を集めて、岡田さんに返し、返事をいただいている双方向ができるのも、職人さんだからではないでしょうか。

鯉節店

食道楽の大版人の味を支える食材の一つが鯉節です。スーパーで小さなパック入りが出回っていますが、ちよつと前までは鯉節屋さんで、雨立ての裏高に鯉節を日々購入する文化がありました。「みなさん、好みの鯉節があるんですよ」と岡田さんがおっしゃるように、空堀界隈ではまちの食文化もまだ健在です。

鯉節の香りが誘う、まちなかのつながり

(地図中④)

鯉節

■「鯉節丸与」 岡田君代さん

空堀商店街(空堀商店街振興組合)にはのかに漂う鯉節の香り。丸与は江戸時代半ばの明和2(1765)年創業という老舗です。瓦屋町の松屋町筋から、空堀商店街へと商いの場を移しつつ、香りを介して地域に代々重宝されてきました。まちとともに戦災をくり抜け、た店舗をきれいに修築した際「卓球でもできたらええね」と気軽に気持ちで作ったホールは「私のもんも展示させて」とやってくるご近所さんたちのアートスペースに。そして子どもたちが「卓球、させて」と、時折は本場に卓球場となります。2階の和室では書道教室も開かれるなど、鯉節とともに「近所使い」されている丸与。「代々ご購買にしていきたいという地域への恩返しになれば」とおっしゃる岡田さんの軽やかさと鯉節の香り、そして町家の気が、ご近所さんを今日も誘います。



布団

商店街で布団、ひと、ときを重ねる

(地図中⑤)

■「ぜにや」 宮崎昌久さん

店先まで積まれたカラフルな布団類。空堀商店街(はいからばり)のなかにあるぜにやでは、多種多様な布団と出会うことができます。4代目の宮崎さんはサラリーマン生活のあと、当時全国2カ所しかなかった布団業の専門学校で修業した本格派。人形などを据える小さな座布団は、手作業で拵えます。「ほんまはあんまり、人前には出たないんやけど」と笑いながらも、お客さんへの丁寧な対応は欠かしません。南光の傍ら、防災訓練時には地域防災リーダーの制服で参加し、店横は毎秋開催される「からばりまちアート」の案内所になるなど、同級生も多い商店街や地域をさりげなく支えています。

